

空き家変身広い庭付きに

「居住促進」舞鶴高専生が改修案

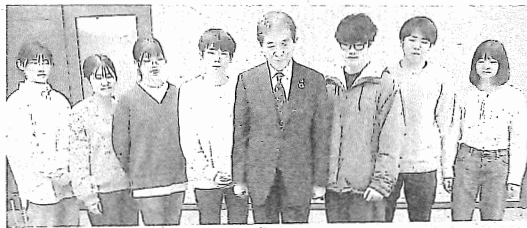
舞鶴市内の空き家を市が借り上げて舞鶴高専の学生が考えたプランに沿って改修し、移住者に貸し出す「居住促進住宅」の改修案が完成し、多々見良三市長らに披露された。市内では、6軒目の居住促進住宅になる。

建設システム工学科の尾上亮介研究室が2017年度から毎年取り組み、今年度は5年生5人と専攻科2人が担当した。物件は東舞鶴駅から徒歩10分の市街地にある。昭和

50(1975)年に建てられた木造2階建ての母屋と、昭和初期に建てられたとみられる離れの2棟構成。三方を道路に囲まれた角地で約510平方メートル、13年から空き家になっていた。

母屋の保存状態が非常に良いため、離れを取り壊して広い庭にし、母屋からテラスを張り出し、1階の3間を統合したりビングダイニングに連続する空間をつくった。庭には離れの廃材を再利用したベンチなどを

居住促進住宅第6号案の模型を見る多々見良三・舞鶴市長(中央)と製作した舞鶴高専の学生たち。舞鶴市役所



設け、既存の建物の歴史を残す。大通りに面した塀垣

の高さは1・2階に抑え、庭を介して家が街につながる効果も狙った。設計を担当した松井嶺磨さん(5年)は「子ども2人ぐらゐの子育て世帯を想定した。庭で走り回ったりテラスに親子で座ったりして楽しんでもらいたい」と話した。

多々見市長は「テラスから庭につながってベンチがあるなどしゃれていて人気が出るんじゃないか。すごく良い案を作ってもらった」と感想を述べた。

3月までに改修工事を終え、4月以降に子育て世帯を対象に入居者を募る。市の借り受け契約が満了した後も住みたい場合は、入居者が所有者と交渉することになるという。

(大野宏)

承諾番号(23-0514)

朝日新聞社に無断で転載することを禁じる